

## 「海外から千客万来の夏を迎えて」（平成 28 年 7 月）

海外の大学との交流が活発になるに連れ、外国からの学生さんの来訪も増えてきました。特に今年の 7 月は、香港、台湾、メキシコ、中国から、大勢を受け入れました。

七夕の 7 日には、香港城市大学の 14 名をお迎えしました。浴衣姿の学生もちらほら混じった英語の授業では、香港の紹介をお願いしました。その後、4 つの



グループに分かれての「おしゃべりタイム」では、若者ならではのテーマで会話がおいおいに盛り上がりました。昼からは、七夕飾りを作成しました。短冊に願い事を書いたり、折り紙で提灯や鶴、星、吹き流しなどを作ったりしましたが、香港の皆さんはもとより、本学の学生にとっても興味深い内容だったようで、誰もが皆、真剣に取り組んでいました。最後に

これらを笹に結び付けて、全員揃って記念撮影を行いました。大学での公式行事が終了した後も、夕方前から、一部の本学学生有志と一緒に、岡山駅周辺で散策やゲームなどを楽しんだようで、「これが実は一番面白かった」という感想が、後にたくさん寄せられました。本学では、9 月に「香港スタディツアー」を実施する計画であり、学生同士の楽しい交流が、近く香港でも期待できそうです。

11 日は、台湾の雲林科技大学から、クラブ活動のリーダーを中心に、24 名が来訪しました。3 つの英語の授業に分かれて、学生と楽しく語り合ったほか、デザイン学部での陶芸コース等の視察に続いて、学生食堂では、うどんや蕎麦、カツ丼など日本のお昼ご飯を賞味してもらいました。午後からは、本学の茶道部の協力により、お茶席に挑戦しました。慣れないはずの畳の上での正座も、あまり苦にならない様子でしたが、お菓子の甘さとお茶の苦さには、皆さんとても驚いたようでした。



8日からの約3週間、本学でデザイン学の実践研修を行っていたメキシコのモントレイ工科大学プエブラ校の学生13名との交流では、14日に「メキシコ・パーティ」を開催しました。わざわざメキシコから持参してもらった、様々な種類のメキシコのお菓子を参加者で試食しました。日本と変わらない甘さの物に混じって、大変辛いお菓子もあり、本学の学生は皆、とても驚きましたが、ジュースやお菓子をいただきながらのおしゃべりに、参加者は大満足でした。常に陽気なメキシコの若者たちが中心となって、ゲームをしたり、メキシコの歌や踊りを紹介してもらって、一緒に歌ったり踊ったりしながら、次第にうち解けていき、予定していた3時間は、あっという間に過ぎ去ってしまいました。

20日から28日までは、今年で10回目となる「日本語・日本文化研修」を実施しました。これは、海外の交流大学の学生さんを対象に、日本語能力の向上と日本理解の促進を図るための取組です。今年は、台湾と中国の3大学から14名が参加しました。3つのレベルに分かれた日本語授業に加え、本学学生との交流やホームステイ、県内視察等もありました。昨年度のこの研修への参加者が、本学の留学生試験を近く受験する予定であるなど、好ましい成果も出始めており、本学の海外へ向けた情報発信の絶好の機会ともなっています。

このように、7月は、海外から実にたくさんの来訪者を受け入れ、多くの学生が、楽しく交流しながら、気軽にお互いの事情を知ることができ、友達づくりも進みました。今後とも、こうした機会をできるだけたくさん企画・用意していきたいと考えています。